

PILLARのマテリアリティ

マテリアリティ

社是である「品質第一 和衷協力 一歩研究」の実践を通じ、持続可能な社会への貢献を図ることを目指すPILLARグループは、「CLEAN・SAFETY・FRONTIER」というスローガンを掲げ、「社会を支える”未来を創る」という目標に向けて取り組みを進めています。その一環として、「流体を制御する技術」をひたむきに磨いてきたPILLARグループとして取り組むべきマテリアリティを特定しています。

■ PILLARにとってのマテリアリティ

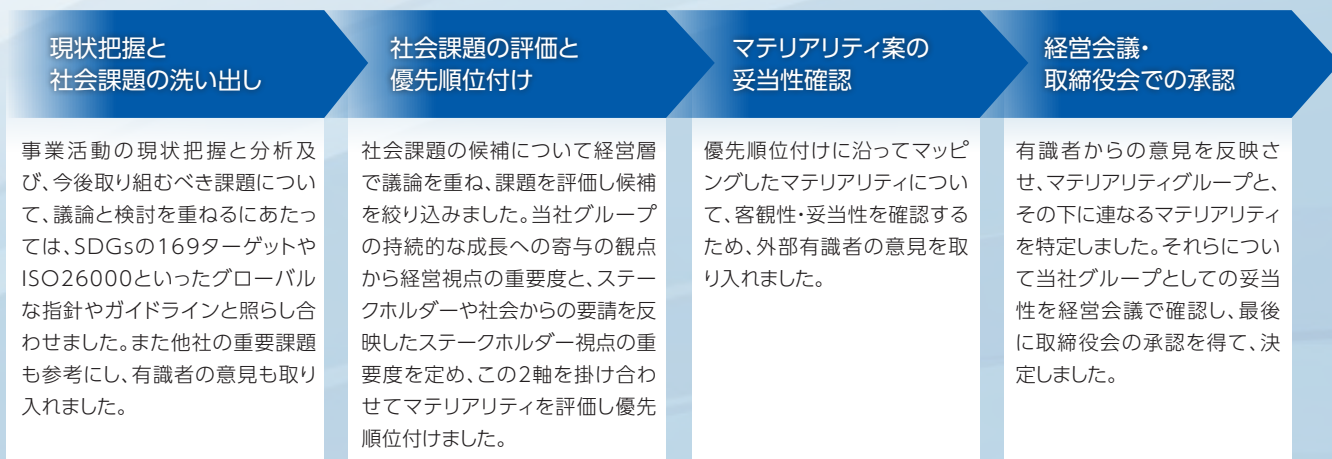
PILLARグループは、サステナブル基本方針で掲げている、事業を通じたサステナブル社会への貢献と、持続的な企業価値向上をとともに実現するために、当社グループとして取り組むべきマテリアリティについて特定しています。

特定されたマテリアリティは当社グループが事業を推進するうえでの道標として、事業活動を通じた当社グループとしての社会・環境へのポジティブなインパクトの創出、もしくは

当社グループがもたらすネガティブなインパクトの低減に寄与します。

このマテリアリティは、今後、当社グループを取り巻く経営環境や、グローバルに求められる社会課題の要請の変化、ステークホルダーとの対話の中でいただく助言などに基づき、適宜レビューと見直しを図っていきます。

■ マテリアリティの特定プロセス



■ マテリアリティマトリックス



- #### PILLARグループのマテリアリティ
- 流体制御技術と材料技術等を活かした脱炭素と省エネルギーを実現する製品の開発・製造
 - 製造でのクリーンエネルギーと省エネの拡大
 - IT/DX技術の活用やサステナブル原材料を用いたシール製品の開発・製造
 - 省資源型製品の開発・製造
 - 生産技術向上(IT/DX・自動化)等による資源の効率化・サステナブル化と廃棄物3R
 - 化学物質による汚染防止と水資源保全に貢献する製品の開発・製造
 - 製造における化学物質による汚染防止と水資源保全
 - 各拠点での生物多様性保全の推進
 - 震災・水害などの災害に対応する製品の開発・製造
 - 市場ニーズ(センサー事業、IoT活用等)に対応した技術の応用による新製品の開発・製造
 - 製品サービスの安全性追求と品質保証
 - 労働安全衛生
 - 人権尊重及び多様性ある人財と働き方の推進
 - 人財育成と採用・定着
 - 産官学連携によるイノベーション創出
 - CSR調達の推進
 - 地域・コミュニティの発展への寄与
 - 取締役会の独立性・透明性の確保
 - 事業活動における潜在リスク管理体制の整備
 - 企業理念と誠実性の実行
 - 21 腐敗防止

PILLARのマテリアリティ

PILLARグループのマテリアリティと関連するSDGs

マテリアリティグループ	マテリアリティ	KPI・2025年度目標	2023年度実績	関連するSDGs	参照頁
脱炭素と省エネルギー	1 流体制御技術と材料技術等を活かした脱炭素と省エネルギーを実現する製品の開発・製造	• 環境貢献型製品の売上高 31億円	• 環境貢献型製品の売上高 26億円 • カーボンニュートラル市場(水素・EV等)や省エネに貢献する製品の展開		P56
	2 製造でのクリーンエネルギーと省エネの拡大	• 自社排出CO ₂ 排出量 25%削減(2013年度比) • 自家消費型太陽光発電設備の設置	• CO ₂ 排出量(Scope 1+2) 14,861t-CO ₂ (22.9%増) • 自家消費型太陽光発電設備を生産工場3拠点に設置済み		P59
循環経済と省資源	3 IT/DX技術の活用やサステナブル原材料を用いたシール製品の開発・製造	• 環境へ配慮した製品のラインナップ拡充 • 再生樹脂を内製化する技術の確立	• 欧米の規格をクリアする低漏洩・高性能パッキンの開発 • 再生樹脂の活用継続		P29・30・39・40
	4 省資源型製品の開発・製造	• お客様の省資源に貢献する製品3件以上の上市	• 省資源型新製品の上市2件		-
	5 生産技術向上(IT/DX・自動化)等による資源の効率化・サステナブル化と廃棄物3R	• 開発リードタイムの短縮、生産効率向上	• 生産能力向上に向けた福知山事業所第2工場竣工		P37・38
化学物質による汚染防止と水資源保全	6 化学物質による汚染防止と水資源保全に貢献する製品の開発・製造	• 化学物質による汚染防止と水資源保全に貢献する製品の開発・製造	• 水車用大型多分割シールの上市		-
	7 製造における化学物質による汚染防止と水資源保全	• PRTR法指定化学物質3物質の全廃	• ラッピングオイルの一部切替		P60
生物多様性の保全	8 各拠点での生物多様性保全の推進	• 自然保護活動の推進	• 三田市さくら保全活動への協力		P60
社会課題に応じた製品開発・製造	9 震災・水害などの災害に対応する製品の開発・製造	• お客様のBCPに対応した免震製品の開発 • 生産工場や公共施設、再開発案件へ納品	• 当社初となる長周期地震動対策に対応する免震装置の採用		-
	10 市場ニーズ(センサー事業、IoT活用等)に対応した技術の応用による新製品の開発・製造	• 新素材、新技術開発と新商品の投入 • メカニカルシールの状態監視用IoTデバイスによるソリューションサービス開始	• 三田工場イノベーションセンター竣工による技術力の集約 • メカニカルシールの状態監視用IoTデバイス実証機による検証開始		P37-40
	11 製品サービスの安全性追求と品質保証	• 業務改革活動の推進	• 自工程完結活動と業務改革活動の実施		-
多様な人材が成長・活躍できる職場の創出	12 労働安全衛生	• 労働災害撲滅(休業災害件数0件) • 健康経営への取り組み推進	• 休業災害件数 1件 • 「健康経営優良法人2024」認定		P53
	13 人権尊重及び多様な人材と働き方の推進	• 女性管理職比率 5%以上 • DE&I研修管理職受講率 100%	• 女性管理職比率 3.3% • DE&I研修管理職受講率 100%		P50-53
	14 人材育成と採用・定着	• 1人当たり人材育成投資額 95千円/人 • 新規雇用に占める女性の割合 30%以上	• 1人当たり人材育成投資額 71千円/人 • 新規雇用に占める女性の割合 22%		P50-52
世界・社会との共生	15 産官学連携によるイノベーション創出	• オープンイノベーション推進ワーキンググループを設け、コア技術の進化、新技術の獲得を図る	• 水素トライボロジー事象解明に向け大学と共同研究を実施 • 大学への人財派遣を継続実施(データサイエンティスト育成)		P39・40
	16 CSR調達の推進	• CSR調達アンケートの実施 • 取引先方針説明会の実施	• CSR調達アンケート回収率 100% • 取引先方針説明会で気候変動に関する説明を実施		P54
	17 地域・コミュニティの発展への寄与	• 地縁地域をメインとした社会貢献活動の推進	• 地域イベントへの協賛 • 学生、障がい者への支援活動を継続		P54
透明で責任あるガバナンスの確立	18 取締役会の独立性・透明性の確保	• 取締役会の独立性・透明性の確保	• 取締役会実効性評価の実施 • 福知山事業所第2工場での取締役会実施		P41-44
	19 事業活動における潜在リスク管理体制の整備	• 定期的なリスク対策の見直し	• 気候関連リスクと機会の影響に関するシナリオ分析の実施(TCFD) • 主要拠点のBCP見直し		P46・57・58
	20 企業理念と誠実性の実行	• グループ行動指針研修の継続実施 • 各種法令に関する研修の継続実施	• グループ行動指針研修受講率 100% • 安全保障貿易研修、情報セキュリティ研修の実施		P46・53
	21 腐敗防止	• グループ行動指針研修の継続実施	• グループ行動指針研修受講率 100%		P46